

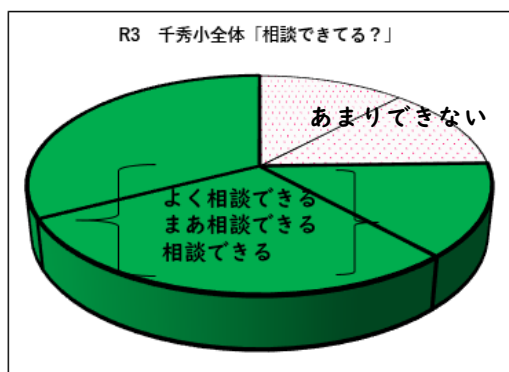


伝える

児童支援専任 佐藤 学

足元を踊る色とりどりの落ち葉や風の冷たさに、晩秋を感じる季節となりました。千秀の子どもたちは、後期に入りそれぞれの目標を達成するために日々の学習に励んでいます。各教室を覗くと、1年生は「生活科の秋見つけの計画」、2年生は「さつまいもの収穫」、3年生は「社会科で矢島農園に」、4・5年生は「上郷体験学習」、6年生は「日光修学旅行」と、各学年、実りある学習活動をしています。その中で、一人ひとりが気づきや疑問、思ったことを憶せず「伝え合う、表現できる!」そんな姿を目指して日々の授業改善に努めています。

さて、昨年の学校だよりに『友達に対して、自分に対してアンテナを高くもち、何かあったときには、大人を頼っていいんだよ、話をしてね』と書かせていただきました。



今年度の分散登校中に実施した「こころと体の健康アンケート」に「こまったことがあったとき、人に話したり、相談したりしている」という項目がありました。全学級のデータを集計したところ、**全体で8割以上が「相談できる」と答えていました。**

専任として、常に意識して子どもたちに接してきたので、左記の結果を、素直に嬉しく感じています。

千秀小学校教職員チームでは、「日々の声かけを大事にする」を合言葉にして、子どもたちに接しています。その声かけの中でも「困ったこと、悩んでいることがあったら言ってね」を積極的に発しています。誰にでも良い、話しやすいのが担任なのか、それとも保健室の先生、隣のクラスの先生……。もちろん、友達やおうちの方、誰でも良いので、「誰かを頼れる、今の気持ちを共有できる、伝えることができる」そんな千秀小学校でありたいと強く思っています。そのためにも、学校はもちろんですが、ご家庭でもお子様の表情の変化、言動の変化にアンテナを張っていただき、家庭と学校が足並みを揃えて、進んでいけることが子どもたちにとってプラスになります。

12月には、横浜市全体の取組の一つである「いじめ防止啓発月間」があります。「いじめは絶対にダメ」は大前提です。しかし、「どのクラスにもいじめの可能性はある」という認識のもと、千秀小にいる一人ひとりの大切な子どもたちが困っていたり、悩んでいたりを『見逃さない』よう、教職員全員で日頃から声をかけ、子どもたち同士の会話にも耳を傾けていきたいです。もちろん、「〇〇をして楽しかったね!」「昨日、こんなことがあって嬉しかったよ!」「新しく出来るようになったんだ!」そんな会話も楽しみにしながら、今日も学校で子どもたちを待っています。保護者の皆様、11月も子どもたちの健やかな成長のためにご協力をお願いします。